

第4回寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

1 日時 平成30年2月16日（木）午後2時から午後3時30分

2 場所 本館2階 第1会議室

3 参加者

(1) 出席委員（10名）

杉本委員長・辻本（通）副委員長・屋敷委員・福田委員・澤井委員
葛城委員・川口委員・北西委員・吉岡委員

(2) 欠席委員（4名）

河北委員・坂本委員・青木委員・赤堀委員

(3) 事務局（5名）

川原課長・向井係長・南畑係長・山田支援員・高岡支援員

4 次第

(1) 第2回放課後子ども総合プラン実行委員会交流会について

(2) 平成30年度全24校導入に向けて

(3) その他

5 会議内容

委員：木田小では高学年の参加率が少ないので考慮したい。

委員：年度で実行委員が交代する場合が多々ある。その為、実行委員同士で引継ぎが困難であると、新実行委員は手さぐり状態で4月を迎える。毎年、子供教室の開催は2～3か月後ではないか。引継ぎの一部として事故等含めたマニュアルが必要となり、負担軽減にも繋がる。

委員：運営委員会で挙げた「子ども達発信」でやりたいプログラムを提供はできたか。高学年の参加も含めて伺いたい。

事務局：交流会では話しが挙がっていない。実行委員が子ども達と距離を縮められた。また、保護者（PTA活動）と児童の関わりが多かったが、地域の方の協力が得られた。組織が整ってから実行委員会へ話を促す。

委員：継続性を持たした組織を増やしていかなければならない。広報活動については人と人が繋がる場を用意して人員を集める事も考慮していくと良いのでは。SNS等では意図が伝わらないまま、組織が移行する場合がある。また、実行委員会の在り方の一部として事例集を用意し、引継ぎに役立ち方向性を共有できる。

委員：委託金は必要経費のみで抑えるべきである。

委員：教育委員会は委託金の内容を実行委員会へ示し、把握をするとよい。同じ安全管理員に謝金の差があり良く思わない人もいるのでは。また、子どもの為の費用が下がる場合がある。

事務局：平成30年度は全24校一律で1,794,100円の予定である。学校の規模も生徒数も違うため平成28年度のデータを参考に予算は検討予定である。実施計画書を年度初めに提出いただく際に参考として委託金の配分例を渡している。

委員：最低限の予算を補償するのはもちろんだが、実行委員会から予算案の設定をいただき委託金を調節する事も考慮されては。

委員：学童と学校を近づける事が実行委員会の役割と考える。現状、学童は子供教室へ一体的に参加できていない学校が多い。

事務局：子どもには関係のない大人の事情である為、真に考えていく。

委員：次年度に24校が放課後子ども総合プランを推進するにあたり、学校側の負担が増えるのではないかと危惧している。教員としては働き方改革があり5時以降は勤務外である。子供教室の内容把握について先、「子どもが主体で子どもがやりたい事を」と問題提起があったが実情では、いくつかの教室を開催し体験して充実した中で意見が出始めるのでは。また、広報について南小学校ではホームページを毎日更新しており、校庭開放開催日等を記載している。他には教室掲載や学校便りに開催日程や報告をしている。ただ、学校では校長を始め教員の入れ替わりがあるので、24小学校の温度差はある。

事務局：元々は学校側の負担を軽減するために出来た政策である。それを実行委員会から学校側に負担を返す事になっているのが現状である。教頭が休日に学校の開門に行かれているなど。本来は、校長・教頭が学校に顔を出さないで良い運営にしていくべきと理解している。PTAの活動や人間

関係等が上手くいっていれば、OBになっても手伝いたくなる。南小学校の実行委員は池田小学校へ質問等、情報交換をされており子供教室が充実していて、次年度の協力も考えられているのでは。

委員：教育委員会事務局の人員増員はあるか。

事務局：現在は係長1名放課後支援員2名の現状である。

委員：購入物品について学校と調節するのか。

事務局：相談していただきたい。例えば図書開放で図書を子供教室で購入とする。その際に学校側に図書の購入の報告と図書室に置かせて欲しい等、情報共有を含め相談していただきたい。

委員：青少年課からAED講習を開催してほしい。

事務局：今年度までは校庭開放サポーター対象で救急救命講習をしていた。次年度は子供教室全体が対象で実施予定である。